

初版第1刷 (2018/6/30) への訂正

ページ	行 (式番号)	誤	正
14	(2.42)	$\frac{2\langle E_x^* E_y \rangle}{\sqrt{\langle E_x ^2 \rangle \langle E_y ^2 \rangle}}$	$\frac{\langle E_x^* E_y \rangle}{\sqrt{\langle E_x ^2 \rangle \langle E_y ^2 \rangle}}$
16	(2.52)	$S_i = E_0 ^2 \mathbf{c}^\dagger \sigma_i \mathbf{c}$	$S_i = \text{Tr}(\sigma_i \mathbf{S}) = E_0 ^2 \mathbf{c}^\dagger \sigma_i \mathbf{c}$
16	下から 5	左回り円偏光であれば $S_2 = S_0$	左回り円偏光であれば $S_3 = S_0$
16	下から 5	右回り円偏光であれば $S_2 = -S_0$	右回り円偏光であれば $S_3 = -S_0$
20	下から 6	q に正準共役	Q に正準共役
24	(3.27)	$\ \hat{a} 0\rangle\ ^2$	$\ \hat{a} n\rangle\ ^2$
36	下から 4	式 (3.3) で,	3.3 節で,
97	下から 5	位相緩和が大きい	純位相緩和が大きい
98	下から 7	実験例を示す. (a) は, 時間差 τ に対する 2 光子検出数の測定データ [12], (b) は (a) から検出器の時定数や前頁の脚注で述べた違いを補正して求めた $g^{(2)}(\tau)$ の値 [13] を示す.	実験例を示す [12,13].
99	上から 8	$p_g(t), p_e(t)$	$p_g(\tau), p_e(\tau)$
101	図 6.6	GaAs	InAs/GaAs
112	図 7.2	下方変換による	下方変換による
116	下から 5	ここで,	となる. ここで,
118	上から 6	Mach-Zehnder 干渉計	マッハ・ツェンダー干渉計
134	図 8.5	$ L\rangle_2$	$ R\rangle_2$
134	図 8.5	$ R\rangle_2$	$ L\rangle_2$
144	下から 2	なっており.	なっており,

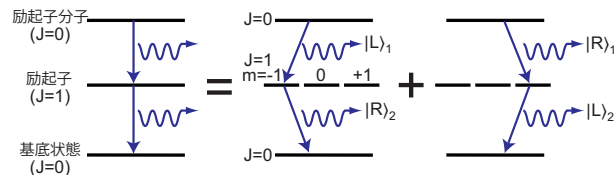


図 8.5 (修正後) 励起子分子を用いた量子もつれ光子対の生成.

初版第2刷(2021/9/10)への訂正

ページ	行(式番号)	誤	正
38	上から10	実にとると	正にとると
39	(3.117) 1行目	$e^{-i(n\omega+\frac{1}{2})t}$	$e^{-i(n+\frac{1}{2})\omega t}$
46	(4.8)	\hat{H}	H
49	(4.28)	$\sigma(n)$	$\sigma(n)^2$
116	下から4	他方が通過する場合	他方が反射する場合
137	上から8	$ \psi\rangle$	$ \Psi\rangle$

初版第3刷(2023/9/10)への訂正

ページ	行(式番号)	誤	正
89	(5.83)	$[\hat{b}_j^\dagger, \hat{b}_{j'}] = \delta_{jj'}$	$[\hat{b}_j, \hat{b}_{j'}^\dagger] = \delta_{jj'}$